

琉球弧の要塞化を問う！

—馬毛島の軍事化反対運動から

前西之表市議会議員 和田 香穂里

自己紹介

東京生まれ埼玉育ち。2011年に、連れ合いの故郷種子島にU&Iターン。介護施設で働いていたが、2017年の市議選に無謀な立候補（経緯に触れる時間は無いが馬毛島が大きな要因）、奇跡の当選を果たして、4年間馬毛島問題（以外にも色々）を（自分で言うのも何だが）鋭く追及。2021年の選挙では14票差の次点で落選。元勤めていた社会福祉法人に復職。一市民として引き続き馬毛島問題（以外にも色々）に取り組んでいる。

自衛隊馬毛島基地に反対する理由

基地は戦争と直結している。基地から出撃していく先は言うまでもなく、基地のある場所でも、さらには基地の無い場所でも、人が平和に生きる権利を、生命そのものをも奪う。青臭い理想論と言われても、私は世界中から基地も武器も無くしたい。戦争は自然災害ではない。人の手で止められるはず。まず目の前の馬毛島基地建設阻止。反戦・平和と馬毛島基地反対は私にとっては不可分。

1. 馬毛島は、絶海の孤島でも、単なる無人島でもない

- ・ 地理的位置
- ・ 馬毛島と人の暮らし
- ・ 人の営みの遺跡
- ・ 自然環境
- ・ 馬毛島の姿

2. 馬毛島に計画されている自衛隊馬毛島基地とは？

- ① 訓練拠点（陸海空12種類、米FCLP20日、自衛隊訓練130日、飛行回数28900回、早朝から深夜まで）
- ② 集積・展開拠点＝兵站拠点（武器、兵器、弾薬、物資、人員を集めて戦場へ。戦争が起きれば標的に）
- ③ 米軍空母艦載機離着陸訓練（FCLP）（深夜に及ぶ凄まじい爆音は厚木、岩国での度重なる訴訟で認められながら、飛行差し止めはできない）

3. 馬毛島は「琉球弧の要塞化（南西シフト）」を支える拠点

- ・ 薩南諸島から琉球弧が標的・戦場になることを前提とした米軍+自衛隊の戦略＝いわゆる南西シフト上の、まさに戦闘戦争を前提とした施設。
- ・ 島嶼防衛は、島を守るのではなく、島を前線にして守るということ。では何を守るのか？領土・領海・国の主権・天皇etcを？米国の利権・米軍の戦力を？
- ・ 島々の住民の命を守るために自衛隊が配備されるわけではない。むしろ標的になるが、その時住民避難は事実上不可能。

- ・「日本列島は米中の最前線。台湾をめぐる有事に巻き込まれることは避けられない。申し訳ないが、自衛隊に住民を避難させる余力はないだろう。自治体にやってもらうしかない」（自衛隊幹部の言葉）。
- ・種子島ではすでに「島嶼奪還」を想定した訓練が繰り返し行われ、「最適」と米軍幹部も絶賛。関連施設が種子島に作られて馬毛島基地と一体化の運用がされれば、種子島も標的になる。

4. 基地建設や訓練が引き起こす問題と、住民の不安・疑問にまともに答えない防衛省

- ・アメとムチ
- ・騒音
- ・環境破壊
- ・環境汚染
- ・健康被害、畜産・酪農・漁業への影響、移住・観光への影響。
- ・漁師から生業を奪う
- ・事故や事件
- ・米軍機や自衛隊機の飛来や飛行経路、飛行高度
- ・交付金漬けによる地域の力の減退
- ・反対、賛成で島民が分断
- ・税金の使われ方

いずれの問題点についても、防衛省は住民の疑問や不安に対して、まともに答えたことは無い。議会での説明、住民説明会、アセス説明会等々の場においては「（公式発表ギリギリまで）馬毛島はあくまで候補地」「アセスの結果を見てから判断する」「今はお答えを差し控える」「現時点では考えていない」等々の言葉を繰り返して、住民を煙に巻いておきながら、「住民の理解と協力が必要」「丁寧に説明をしていく」とうそぶく。

5. 市長

- ・2017年「馬毛島軍事施設絶対」を公約に6人→4人の再選挙を制して当選。しかし就任直後から「情報を得る必要がある」と賛否を明言せず。
- ・2020年8月に「基地建設は失うものが大きい。計画には同意できない」と表明し、反対派の支持を受け、反対派団体と政策協定を結んで、2021年1月の市長選に臨む。賛成派の商工会長の一騎打ち144票差で制し2期目に。
- ・今年「新しい局面に入った」と防衛省に「協議の場の設定」「再編交付金と自衛隊官舎に特段の配慮」を求め、防衛省との「協議」を重ねた。
- ・9月議会冒頭に「同意不同意を述べる状況ではない。行政手続きを進める」と言うや否や、防衛省の求めに応じて「馬毛島学校跡地売却」「馬毛島市道廃止」「自衛隊官舎用地売却」の議案を追加提出。「公約違反だ!」「裏切者!」「辞任しろ!」の声も馬耳東風。「住民投票は考えていない」「任期は全うする」と、反対派市民の声も一蹴。

明らかに基地建設に協力する姿勢に転じたにも関わらず「（反対の）気持ちは変わっていない」「（反対の）皆さんには最後まであきらめないで欲しい」などの発言もあり、この市長の支離滅裂ぶりには拍車がかかっている。

6. 議会

- ・議会は改選前の反対：賛成＝10：5が改選後7：7に。議長を反対派から全会一致で選出するという愚挙により、議決権では反対派が1票マイナス。結果、西之表市初の「賛成決議」。そして今回9月議会で3議案が可決し、最後の「砦」を失った責任は重大。馬毛島問題が表面化する以前から反対の立場だった議会は、今は無い。反対派7議員による反対派市民への説明も無い。

7. 県（知事・議会）

- ・様子見だったが、地元が「黙認」でアセスの知事意見書は果たして？

8. 住民

- ・西之表市では2017年の選挙時には反対が約7割。4年の間に半々に。
- ・昨年12月の種子島への関連施設配置案で、中・南との明らかな差に動揺。
- ・賛成派による講演会、シンポジウムなど、住民に向けた動き。
- ・自衛隊関係者が多いという地元の事情や宣撫工作。
- ・中種子町、南種子町は、官民一体で誘致運動。

9. 反対運動のこれまで。

10. 反対運動、今後の課題

- ・運動のあり方
- ・次回の市長選挙に向けた取り組み
- ・市議選では反対派の巻き返しが必要
- ・県議選

11. まとめ